



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

PARTY

Vol.69

2025年冬号

令和6年度 第2回全体研修会

テーマ 「令和6年度 ケアマネジメントに関する改定研修」

講師 ケアマネ経営研究会代表 株式会社日本高齢支援センター

代表取締役 戸田 正雄氏

開催日時 令和6年7月13日(土) 14時00分～16時00分

開催場所 さいたま市民会館おおみや 6階 第9集会室

本年度第2回目の全体研修は、会場のみで開催し33名が参加した。

研修内容は3部構成で、「入院時連携について」「モニタリング実施緩和について」の2部をメインとし、「医療保険同時改定におけるケアマネジャーの取り組み等」で今回の報酬改定を医療保険の観点からも補足していただいた。

1. 入院時連携について

戸田氏から入院時連携加算の概要解説後、研修参加者に「加算を算定したか」を中心にグループワークで情報交換を行った。

情報提供に対応できなかった意見として、①「入院3日後に連絡があったため加算の算定ができなかった」②「独居で連絡が遅くなった」③「利用者・家族、医療機関・担当介

護支援専門員の関係ができていたため、特に連絡がなかった」との報告があった。

戸田氏からは「情報提供のためのデジタル化による業務効率化について」「医療保険における入院支援加算について」「三次救急からの下り搬送に関する医療の流れについて(※1)」、それぞれ解説・説明をいただいた。

2. モニタリング実施緩和について

概要解説後、参加者に「モニタリングをオンラインで行うか、またどう行うか」について意見交換を行った。

オンラインモニタリングを行わない理由として、①「やり方がわからない」②「合意がとりにくい」③「十分な情報がとれない」④「テレビ電話等の操作がわからない」が挙げられた。

戸田氏からは介護支援専門員1名当たりの担当件数が改定前の35件上限39件から、40件上限44件と増加したことによる介護支援専門員1名当たりの収入(売上)が増加、さらにケアプランデスク連携システム利用申請等による担当件数では45件上限49件となった。そのことにより収入が増加し、年収100万円アップを目指す提言や、さらにケアマネジャーの1千万円プレーヤーの誕生が可能となることにも話が及んだ。また同時に地域のケアマネ不足解消に至ることも言及があった。

3. 医療保険同時改定におけるケアマネジャーの取り組み

こちらは通院時情報連携とターミナルケアマネジメントを中心に実際のケアマネジメントに絡めながら解説していただいた。

●感想・所見として…

ソーシャルワーキングの力を高めるために相互理解は必須であり、医療保険の話を絡めて説明いただいたことはその一助となり、より多職種連携に資する実力を養えたのではないかと思われる。

また具体的なDX(※2)も講義で示していただき、参加者がそれぞれ置かれている立場の中で、「どのように実行していくか」だけとなった。グループワークと講義を織り交ぜたことにより、講師と参加者が一体化し、自己の業務のあり方、今後の業務のあり方を客観的に考えるリフレクシヨンの効果も大きく、2時間という短い研修ではあったが、それ以上の価値がある内容の研修となった。

(※1) 下り搬送…高次の医療機関と地域の一般病院が日頃から連携関係を構築し、高次救急病院に搬送された患者について「連携する一般病院でも対応可能」と判断された場合に「転院搬送」すること

(※2) DX…デジタル技術を用いて、業務フローの改善や新たなビジネスモデルの創出だけでなく、レガシーシステムからの脱却や企業風土の変革を実現させること



令和6年度 第3回全体研修会

テーマ 「在宅お薬お困り交流会」

講師 さいたま市薬剤師会 常務理事 向後 佑希氏
開催日時 令和6年11月1日（金）14時00分～16時00分
開催場所 レイボックホール6F 第1集会室

はじめに「今年度の改定ポイント～薬剤師にできること・困っていること」について、向後氏よりお話をいただいた。

1. 薬局の薬剤師の仕事

医師の処方箋に基づいて薬を調剤し、患者さんに説明してお渡しする。従来の薬局の薬剤師の仕事は、この印象が強いと思うが、2020年の法改正により、薬局の薬剤師は、患者さんにお薬を渡した後が勝負になっている。「実際にお薬を使ってみてどうだったか」「副作用はないか？ 飲みにくいのか」等を患者本人や家族だけでなく支援者も含めて情報を集めながら、「トレーシングレポート」を作成し（薬剤師が必要だと思う情報を用紙に記入する）、医師に提出する。医師はその情報を元に次の診察を行う。このように患者、薬剤師、医師が繋がる流れができて、現在の地域の薬剤師は、表には出ない重要な活動をしている。

2. 薬剤師が地域で求められる社会的な背景

高齢化社会により、通院困難な患者や独居、認知機能が低下している患者等様々な患者が地域にいる。また、沢山の病気を抱えており、1つの病院では完結せずそれぞれの病院で薬を処方し

ている場合が多い。沢山の薬をそれぞれの医師の指示通りに飲めれば良いが、実際にはその患者の生活に合っておらず、飲めていないことが多い。「患者の生活に合っているのか」「こんなに沢山の薬を飲んでいて大丈夫なのか」は、実際に自宅に行ってみないと分からない面もあるため、自宅に行つて確認することも地域の薬剤師に求められており、個々の患者に合った薬を処方することに繋がる。

これは、地域包括ケアシステムの構築にも繋がっており、医療だけでなく様々な支援者を繋ぐ役割にもなっている。

3. かかりつけ薬剤師について

- ・ 複数の病院が薬を処方している
 - ・ いつも行く薬局の薬剤師が度々変わる
 - ・ 薬の相談を誰にしたら良いのか分からない
- 寄り添った対応が必要な患者には、医療保険による「かかりつけ薬剤師」制度がある。個々の患者と薬局との契約により、特定の薬局の薬剤師が担当になり、しっかり患者を把握することで、異なる病院の薬を一包化することができる。
- ・ 必要に応じて自宅に行き、薬の整理を行うこともできる

また、患者との関わりがより深くなるため、会話から情報を得る場合もあり、ケアマネジャーと連携する機会も増える。

- 留意点として、
- ・ かかりつけ薬剤師を利用するには、費用（負担金）が発生する
 - ・ 全ての薬局にかかりつけ薬剤師がいるわけではない
 - ・ サービスの利用限度額には含まれない
 - ・ 他の介護サービスとの時間重複は問題なし

4. 薬剤師とケアマネジャー等多職種との連携

診療報酬と介護報酬改定により、薬局や薬剤師とケアマネジャーの連携にも評価がついたことで、今後より一層の連携が進む。サービス担当者会議や退院時共同指導など支援者も含めて情報共有が必要な時には、薬剤師にも声を掛けて欲しい。在宅支援に限らず外来通院中でも支援は可能。

引き続き後半は、さいたま市介護保険課 山田 課長もご参加いただきグループワークを行った。また、さいたま市薬剤師会より各グループに薬剤師1名入つていただき、疑問や困りごと等の解決に向けた助言をいただいた。

ケアマネジャーの皆さんが日頃から受診や服薬に悩んでいることや、薬剤師と連携することで解決できる課題も多いことを共有することができた。

「日頃から相談できる薬剤師を見つけておくと良い」というアドバイスもいただき、今後の支援に活かしていきたい。

テーマ 施設ケアマネサロン「多職種との連携について」

開催日時 令和6年7月20日(土) 14時00分～16時00分

開催場所 SOMPOケア大宮 研修室

参加者 16名(会員6名、非会員10名)

〈内容〉

- 1、自己紹介
- 2、グループごとの話し合い
- 3、発表



サロンが始まり、参加者全員が順番に自己紹介を行った。名前、施設名、職種、基礎資格、施設の推しを発表する。施設の推しについては各参加者の個性が表れ、自然や縁について触れている人が多い印象であった。対人援助職は感情労働であ

ることから、癒しを求める傾向にあるのが必然なのかと感じてしまう程であった。

次に参加者が2グループに分かれ、各グループで『多職種との連携』をテーマに話し合う。どちらのグループも介護職と看護職間の連携について一番の話題になることは予想していた通りである。基礎資格が介護職のケアマネジャーの割合が大きくなってきていることは色々な所で耳にしたが、今回のサロンでは看護職などの医療系の基礎資格を持つ参加者はおらず、そのことについて身に染みて感じた。

記録や情報共有の方法について話題が上がり、媒体が「昭和的なアナログ方式」と「令和を象徴するICT」に分かれており、それぞれのメリットとデメリットがあることについて話し合った。施設の規模、資金や事情により、双方が混在し、参加者それぞれに自身のやり易い方法は異なる。記録が手書きからPC入力になり便利になった反面、コピーと貼り付けが横行され、文書作成能力が下がっているとの意見も数多く聞かれた。ヒヤリハット報告書や事故報告書の作成時に顕著に表れる傾向にあり、ICT化の副産物なのではないかと思わざるを得ない。時代の移り変わりや職場環境に順応し、柔軟に対応することが大切で

ある。円滑な情報共有やコミュニケーションが行えるためには、私たちケアマネジャーの働きが重要になることも分かった。勤続年数の長い職員が多い施設では、職員間でお互いへの理解が深く、比較的に情報共有が円滑であることも分かった。

医療職の割合が多い老人保健施設などでは、特別養護老人ホームなどに比べると管理的な要素が強く、生活の場へ戻るためのリハビリの場や療養の場と言う印象があった。また介護職の割合が多い特別養護老人ホームなどでは、老人保健施設などに比べると生活の場としての要素が強く、医療的な視点を敬遠する傾向にあり、多職種協働の一步を踏み出せない施設も多くあることが分かった。

その他、ケアマネジャーの悩みとして、やっとの思いででき上がったケアプランが上手く使われず、結果としてケアマネが想定していた悪化を辿ってしまったこともあり、むなしい気持ちになつてしまうとの意見も多く聞かれた。介護現場ではケアプランの内容が把握されずにサービスが提供されていることがあり、大きな課題であることが分かった。

参加者の感想として、「40分の時間があつという間に過ぎた」との意見も多く、なかには「まだ話し足りない」と言う人もいた。今後もサロンの開催を通して、参加者の本音や多くの施設ケアマネが悩んでいる事柄を聞き取り、解決のための手がかりとしてより良い研修の企画にもつなげたいと思う。

以上を第1回目の施設ケアマネ活動の報告とする。

第1回よろず相談会

テーマ 「高齢者身体拘束防止の委員会など」

開催日時 令和6年8月23日(金) 14時30分～15時45分

開催方法 リモート方式及び会場研修開催

参加者 14名

第1回よろず相談会は、株式会社日本高齢支援センター 代表取締役 戸田正雄氏をお招きし、今年度の改定ポイントである、高齢者虐待防止について行われた。

主な内容として

1. 身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の入所者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録すること。
 2. 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護支援専門員に周知徹底を図ること。
 3. 身体的拘束等の適正化のための指針を整備すること。
 4. 介護支援専門員に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施すること。
 5. 措置を適切に実施するための担当者を置くこと。
- についてご講義をいただいた。



さいたま市介護支援専門員協会 会員随時募集中！

さいたま市介護支援専門員協会は、介護支援専門員の資質向上とネットワーク化を図り、介護支援業務の円滑な推進に資することを目的に活動しています。

入会をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

ちょっと coffee break

「私とドラゴンクエスト」 会員K

先日、国民的ゲームの「ドラゴンクエスト3」がリメイクされ発売されました。私はファミコン版発売当時、幼児だったためプレイできずスーパーファミ版も小学生のお小遣いで買うことができず、幾度かの移植版が発売される機会にも買うことができず、過去の名作をプレイする機会がないまま大人になりましたが、今プレイしたくともファミコンやスーパーファミ、その他のゲーム機を引っ張りだしてプレイすることは困難なため、現代のゲーム機で綺麗な映像でプレイできることが個人的にはとても感動しました。

ドラゴンクエストのプレイヤーは主人公である勇者を操作して、様々な職業の仲間を引き連れて魔王を倒すための冒険に旅立ちます。魔王にたどり着くまでの間、様々なイベントをこなす道中の魔物と戦いながら進むのですが、最初はみんなレベル1なので魔物に倒されてしまうこともあります。そのためプレイヤーは道中に現れる魔物と戦いキャラクターたちに経験値を積み重ね、徐々にレベルアップさせて強くさせます。また強い武器や防具などの装備品や道具を揃えるために魔物を倒してお金を稼ぎます。一見単純な作業のようにも見えますが、プレイしていると自分が操作するキャラクターの成長を実感しながらプレイするので、徐々に感情移入していく。勝つことができなかつた強敵に勝つときは爽快です。

私は大人になってもゲームをしています、こういった楽しさを感じることができる娯楽だ

からなのだと思います。

個人的な考えですがどんな仕事でも始めるときは皆、レベル1で知らないことだらけです。少しずつ経験値を積み重ねレベルアップを繰り返して成長します。自分一人では立ち向かえないときは同じ職場の仲間と協力して立ち向かいます。ときには違う業種の人間ともコミュニケーションを取って問題を解決することもあります。自分の成長を促すために転職して新たな業種にチャレンジすることもあります。自分自身が成長するためには、ドラゴンクエストの勇者のように仲間と協力しながら経験値を積み重ねていく。この成長過程はドラゴンクエストと近いと思って日々仕事をしています。成長と共にもらえるお金が比例して上がっていくとは限らないのが、ゲームと違って現実の仕事の厳しいところですが…(笑)

子供のころはゲームばかりしていると当然ですが両親にとっても怒られました。ゲームが禁止される家庭もある中で、一方的に禁止せずルールを守ればゲームに触れさせてくれた両親には感謝しています。今になってみれば疑似的に成長体験を感じさせてもらえることは、私にとっては良い経験だったように思います。この経験が仕事における成長の考え方に今も生きています。

自分が理想とする勇者を思い描き、理想に近づけるよう日々の仕事という名の魔物を倒して経験値を積んでいきたいと思っています。

あしがき

厳しい寒さが続いており、今冬は平年または平年よりも気温が低くなる予報も出ています。インフルエンザはじめ様々な感染症が流行していますので、高齢者の方は元より、くれぐれもご自分の身体を大事にしてください。

事務局

〒331-0074 埼玉県さいたま市西区宝来86-1

敬寿園宝来ホーム

連絡先 TEL 080-4750-4400 FAX 048-620-0601

ホームページ <http://www.saitamashi-keamane.jp>

さいたま市介護支援専門員協会